

昭和39年度中津江村一般会計予算

Table of income (才入) for the 1964 fiscal year, including items like taxes, grants, and interest, totaling 52,293 thousand yen.

Table of expenses (才出) for the 1964 fiscal year, including items like salaries, maintenance, and education, totaling 52,293 thousand yen.

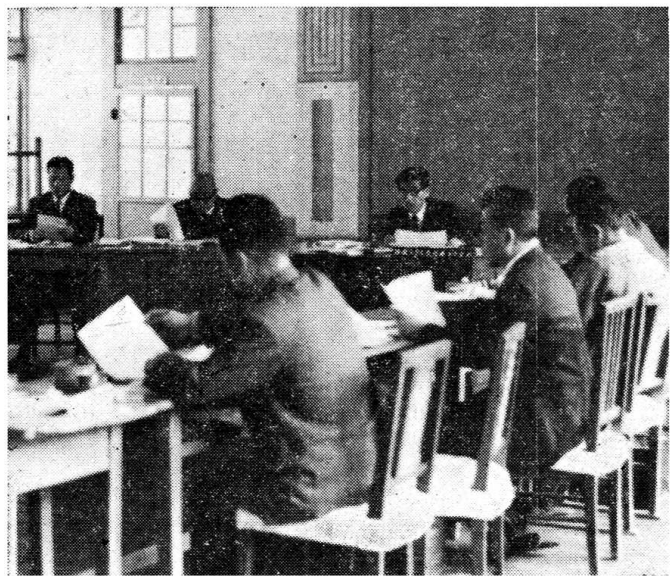
重点政策3つの柱 予算に編り込まれた基本方針 健全財政を貫く

第一回定例村議会は、昭和三十九年度中津江村一般会計予算、昭和三十七年度中津江村歳入歳出決算書を始め、第三十三号議案まで一部の修正をのぞき、いずれも原案通り可決された。去る三月十二日は、執行部から二十六の議案が提出され、各係からの詳細説明に渡る説明がなされた。この日は議案の説明をいど、いずれの議案も議決せず、午後四時半、自然休会がなされた。閉会中は、各議員小委員会において提案事項の審査を行い、再び三月二十四日議会は開催された。中でも昭和三十九年度一般会計予算は、先に行つた中津江村基本計画にその事業内よるを求め、昭和四十五年の目標年次を基礎として計上された予算だけに、村民の関心もここに集中していたが、原案の通り可決された。又本三十九年度からは、予算書の様式も変更、事業別となつてゐる。三十九年度予算は、村長公約でもある三大重点を、具体的に基本計画でとりあげ、はつきりと編り組んだのが、三十九年度予算の特色ともいえる、半面義務的経費の増高、地方税法の改正によつて、財源の低下が、予算編成を困難ならしめてゐる。が、健全財政の基礎を守り財源面には特に注意を配し、予算総額五二二九万円となつてゐる。

第一回定例村議会 総予算五二、二九三万円を議決



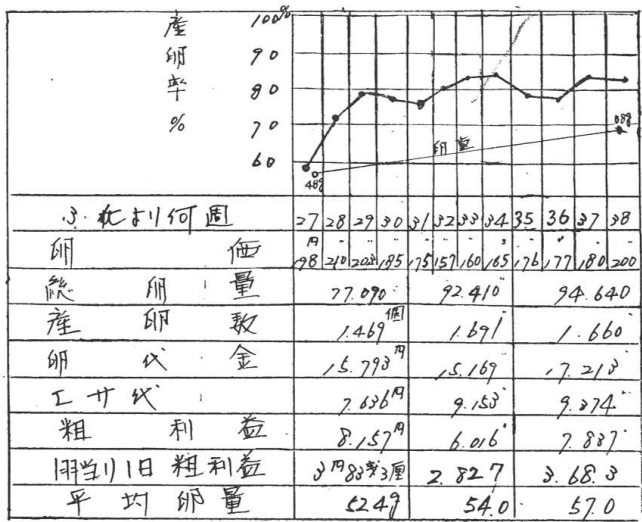
【第39号】 発行所 編集発行人 大分・日田・中津江村 川津一人



質的にあがる本年度予算

一般会計 村税 二四、五三三万円

歳入 歳入面では村税二四五三万円、地方交付税一五〇〇万円が計上されてゐるが、これは当初において、見込まれる限りの額で、実際の執行上は、特に留意せねばならぬ点であらう。他に国庫補助金二〇三万円、県補助金三九九万円、この額は事業に対する補助額で、ほとんど大差ないものである。 歳出 以上が歳入の主な財源となるものである。 歳出 才出では自治体運営には当然かせない議決機関、執行機関の行政費用で、議会費一五六万円、総務費一五八七万円である。 他に国庫補助金二〇三万円、県補助金三九九万円、保育園や社会福祉、国民年金事務費などの経費である、衛生費一三二万円は、住民保健衛生のための、予防民保健衛生のための、予防からである。 農林業費四七一万円のうち、農協助成金五〇万、果樹苗木に対する補助一〇万円や、サイロ設置、基礎牛導入に対し一三万の補助金が計上されてゐるが、こんな所も本年予算特色の一つである。 林業費六四七万円は森林組合索道購入補助二〇万円、林道補助維持管理費の五〇万円と橋梁改良工事五〇四万円がその主なもので、商工費は四〇〇万円、商工会助成金八万円がその主なものである。 残りは経費および雑費となつてゐる。 次の土木費は、本村長の公約でもあるし、当年度予算の三大目標の一つ道路の改修(八女小国線)などがその骨格をなしてゐる。 その内訳は土木管理費、道路橋りょう費に別れ、中でも県道改良工事負担金百一十万円、道路維持費三〇万円であるが、残りは人件費、一般雑費、種々の負担金で土木費総額二九二万円となつてゐる。 消防費九十九万円は、機械運搬車購入費用四〇万円、団員報酬が三二万円である。 次の教育費は目新しいものとしては別になが、教員住宅建築工事費一七二万円と、各学校の教材の充実を図るため総額二〇〇円程度計上されてゐる。 次は公債費二四二万円は村債に對しての元利償還金である。 特別会計も、健全財政と



近代的な設備と技術 を持つて鶏種改良を

養鶏センター視察記

中津江村養鶏組合は、去三雄先生を議長として、三月七日、八日の両日大分市大南町の、県農協経済連養鶏センターを視察したので、その状況を報告いたします。 当時は、六千四百円の計費を投じた、みごとなるので、一万羽孵化できる卵卵器十二台、育すう舎、種鶏舎、一般飼育舎があり、元大分県専門技術員の広瀬扶

先生が特に力説されたことは、飼料効率で何kgの卵の飼料を与え、何kgの卵の生産ができたか、また卵一個の生産原価は、いくらになるかということ、つまり餌を1kg与えて、卵が二〇〇kg生産されたならば、この飼料効率は二、九ということ、この飼料効率を二、九三、二を目標に経営をおこなうことである。 そこで少しの餌で大きな卵を生む鶏が飼養効率よくなる、しかし、鶏の蛋白質必要量の六割(卵四割十の維持二割)は減らすことはできない。 そのためには、素質のよ

独立採算を基本方針としており、若干の繰入金を除き基本方針通りである。 製茶工場は、本年度から農協の運営となつてゐる。 というのは、いままでの単年度予算でなく、振興基本計画に基き、昭和四五年の目標をめざした、計画性のある予算といえるであろう。 数字ではその内容を知り難いが、本年度予算の真の目的は、四五年迄の計画の一端と解される。 予算書では(八女小国線改修負担金百万、田ノ口線が千円)微額の額が計上されてゐるのみであるが、実際にはこのような事業が、一番重要であるし、村債もまぬがれぬであろう。 又また農業生産基盤造成基金積立二百万円も、この積立の真意は、農協の運営資金ともなるものである。 このような計画こそ、今後の当村の発展を、約束するものである。

編集室

本年度の予算は、いままでの予算と比較して、その内容は、かなり充実して

4月のこよみ(行事予定表)

- 1日 期末決算のため農協休業
2日
3日
6日 妊婦健康診断(母性相談)役場2階
尿の検査代60円薬代
7日 乳児相談(栄養指導)役場2階
8日 保育園入園式
9日 各中学校入学式
各小学校入学式
きょう大病予防注射鯛生10時~12時迄丸蔵14時~15時迄
10日 各小学校入学式
きょう大病予防注射川辺10時~12時迄野田14時~15時迄毎週
日迄信用保証付き特別小口融資
14日 商工会役員会予定
29・30日 出張徴収

4月1日~20日迄固定資産台帳の縦覧を行います。

中津江村振興基本計画樹立さる

村民一人当所得一八万九千円
中学校給食も45年までには



本村の発展と村民みなさんの所得向上のために計画されたのが、この中津江村振興基本計画である。三十三年ダム問題が突発し、それだけでなく科学技術の高度成長は、当奥地山村住民の上にもようやく押し寄せ、折りかたのダム問題が、中津江の盛衰を揺り動かすものであつたことは、周知の事実である。

みなさんの所得向上のため
3重点を中心に本村の発展を図る

当収用委員会も裁決を下し大乗の境地に立ち、協力的体制で建設省との交渉も個人補償は一応解決し、本村の発展は約策されたかに見えたが、その基本方針は、かつて無計画のままであつた。そのような情勢下において、県基本計画の樹立に伴い早く立案計画したのは、いまさら論ぜるまでもなく二月下旬県の策定を受け、三月議会の承認を受けるに至り、この計画の残された問題は、一々にみなさんの意志に掛つている。もちろん、全ての計画にもその要点があるように、この基本計画にも、その重点はある。次の三つが本計画の骨格ともいえる重点である全ての産業発展の毛織でも道路の改修、新設、他産業と比較し著しく格差のある農業の基盤整備以上二点にも、当村の振興にも相互的、極東的に関連する公共補償である。以上が本基本計画の経緯と主旨であるが、児塔村政の総兵と総力をかたむけ、村民みなさんと一致団結して、この計画が成功するよう、折りたいものである。

議員のことば

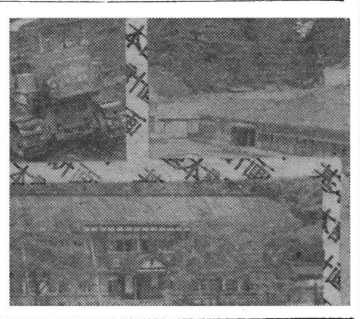


川野 議員

川野 信男

昨年改選に当りましては、村民多数のご支援をいただき、当選いたしましたことを心からお礼申し上げます。早くも一年を経過せんとしますが、常に頭を離れないのは、ダムの問題であります。これがために墳墓の地を去らねばならない水没者の方々には、深く同情申し上げますとともに、

ご健康にてより良い生活ができますよう、お祈り申し上げます。村の将来を思い、なんといたつても建設省に要求中の、立村計画に基く共補償の完全実施であります。つまり村を従断する県道の改修を始め、代替農地移転対策、飲料水の問題、教育施設、官公庁の移転、発電所の建設等であり、これを実施するには、関係者の方に絶大な協力を戴かねばなりません。特に代替農地工事、集団移転地工事が順調に進み、一戸でも多く村にとどまることを念願いたしますと、もと土地所有者の皆様のご理解と御協力を切に御願いたします。次に農道の新設であります。産業の発展は道路の新設にあると思ひます。青年が村を去り、長男が農業を捨てる原因も、昔のままでの農村環境にあると思ひます。幸い原部、八所、田ノ口線の二期工事が始まり、一方、野田一田ノ口線も一期工事が終つたことは、喜びにたえないところであります。農業構造改善も、農村近代にも焦点は、農業所得を



45年を目標に
種々の事業計画

国民経済の動向は、つねに農業への敏感な反映をもたらすことは申すまでもなく、最近における国民経済の中の農業の地位は年々低下している。第二次、第三次産業の急速な発展にともなつて、第一次産業の経営の合理化、近代化が強くさげられておる。こうした切実な情勢のなかで、農業および農民がどのように対応しようとしていくか、本村の農業の構造的仕組み年次の変化についてその現状をとり、地域農業の総合的開発計画を立て、他産業との所得のバ

ランスのとれたものにし、農業の近代化を図らなくてはならない。このためには、まず本村の農業の目標として、果樹(うめ、くり)六〇町、養鶏六六千羽の選択的拡大をはかり、現在の生産所得四五百万円から一四七百万円の所得増収となり、その他の作物については、技術の徹底農用機械の導入などにより、反当りの生産性の増収を図る。これらに必要な共同育すう所(一回に六千羽の育すう施設)など多くの事業計画がなされておる。



【金のたまご】
基本計画で所得倍増

木村特有の林業振興と併進して、第一次生産所得の増大を基礎として、他産業の発展を図る。地域開発の阻害要因ともなつておる道路網である。木村の主幹道路八女一野国線(川辺一鯛生間)の全面的改修、林道、町村道網の開発整備、住民の福祉、保健衛生、教育設備の充実など、すべてのことを網らした計画で昭和四十五年を目標とした、振興基本計画が樹立されたものである。計画の第一年度の試験の年でもあるが、本年度より着々とその目的達成のため、第一歩を踏み出したのである。

野田小学校に
寄附
さきに病氣のため、御息子を失なわれた、川野文好さんが、野田小学校に最新型の時計を寄附された。

中津江村振興基本計画の目標 (業種別)

平均 現在の 昭和45年 までの 標準年次 目標年次

業種別	就業人口			生産額			生産者一人当り所得		
	標準年次	目標年次	倍率	標準年次	目標年次	倍率	標準年次	目標年次	倍率
農林小	1,075	931	87	66,940	217,736	325	42	158	377
建設小	189	180	95	257,111	313,260	121	1,183	1,514	127
卸売小	1,264	1,111	88	324,051	530,996	165	1,225	3,101	253
小売小	314	309	98	287,728	307,378	107	597	648	109
金融小	143	140	98	118,971	186,953	157	270	434	160
運輸小	183	155	84	152,785	168,514	110	95	123	129
その他	640	604	92	559,484	662,845	118	962	1,205	125
合計	2,400	2,100	84	1,074,973	1,480,998	138	2,713	5,161	190

予防司法として
私権の保全のために
公証役場

私たちは誰もが、多かれ少なかれ、他の人と金銭や土地、建物などの貸借や、売買をしたり、また頼母子講を作つて金の融通をしたり、自分の財産の保全や、相続など、一生のうちにはいろいろと大切な約束や、取り決めをしなければなりません。こうした場合、ただの口約束や普通の証文(私署証書)で済すことでは、しかしこれではもめ事が起つたり、裁判になつたとき、自分の権利を失うことが少くありません。

公証役場は、生長の早い木という意味である。短伐期林業を押し進めるには、生長の早い木が望ましい。樹種の導入つまり、これまでの造林樹種に替つて、新しい樹種をもつてくることは、品種改良の手段であるが、これはいろいろな問題がある。新しい樹種の導入には、次の三つの場合がある。

一、金銭の貸借とそれに伴う担保、保証等の契約。
二、土地家屋、立木、動産の売買
三、土地家屋、機械等の貸借に伴う契約
四、商取引に伴う諸契約。
五、遺言、贈与、遺産分割等、家産の管理。
自分の権利を正しく守るためにも、公正証書を利用ください。

公正証書を利用したい人は公証役場を利用下さい。日田市淡窓町二八八 日田公証役場 電話二九八五番

短伐期林業への近道

中津江村 森林組合

早生樹種は、生長の早い木という意味である。短伐期林業を押し進めるには、生長の早い木が望ましい。樹種の導入つまり、これまでの造林樹種に替つて、新しい樹種をもつてくることは、品種改良の手段であるが、これはいろいろな問題がある。新しい樹種の導入には、次の三つの場合がある。

早生樹種の導入は前記三つの中、二、三の期待にそつともなれば意味がない。わが国には、早生樹種として、外国樹種が明治から採り込まれておるが、その多くは、大学や試験場

基準目標年次の所得

区 分	基準年	目標年	倍率
総 人 口	5,212人	4,300人	82%
生 産 額	1,074,973千円	1,048,998千円	137
所 得 額	592,688	816,677	138
農 林 業 所 得	269,110	420,291	156
商 工 業 "	243,597	280,251	150
そ の 他 "	79,981	116,135	145
就 業 人 口	2,400人	2,100人	84
農 林 業 人 口	1,264人	1,111人	87
商 工 "	640	704	94
そ の 他 "	499	385	77
就業者1人当所得	246千円	388	157
農 林 業 所 得	212	378	178
商 工 "	330	465	122
そ の 他 "	161	301	186
村民1人当所得	113	189	167

振興基本計画のあらまし



熱意で育てよう基本計画

本計画の経緯と主旨

理 由

△ 現在の社会情勢では都市とその他の地域差、産業別の格差が、非常に早い速でひらいていく。このような情勢下において、県では石油と鉄を中心とした工業開発、久住飯田酪農地帯の開発を重点とした、大分県基本計画を樹立したのである。

本村においても、ただ単に水没地の再建ということだけでなく、全村を含めた総合計画の必要に、大きく速度を上げたのである。

計画は昭和三十一年から、昭和三十五年を平均とした基準年次を、目標年次（昭和四五年）までに、県の基本計画の延率を参考に、実際伸びるであろう最高限度の延率を求めたのである。

もちろんこの計画で終るといふものでなく、ダム竣工後は再び変化した本村の姿をとらえ、再び基本計画を立てる方針である。

性 格

△ これまでの計画は、単に一部間あるいは一課のみの計画で、計画の施行は困難で、片手落ちな所もみられ、その成果はなかなかたされなかった。

△ 本計画では、相互の関連性を徹底的に調べ、農業所得の向上を図りつつ、商工業所得の向上をねらう、といったぐあいに、総合的な計画でその妙味が發揮され、あくまで一部の計画でない。

また村民所得の向上とともに、社会政策を取り上げ教育、文化、社会福祉、保健衛生、ダム対策といった種種の難問題を、一つ一つ検討し、総合的に計画されたのが、この計画の大きな特色の一つである。もう一つは、単年度で終るといふものでなく、長い間継続された計画である。

上 級 機 関

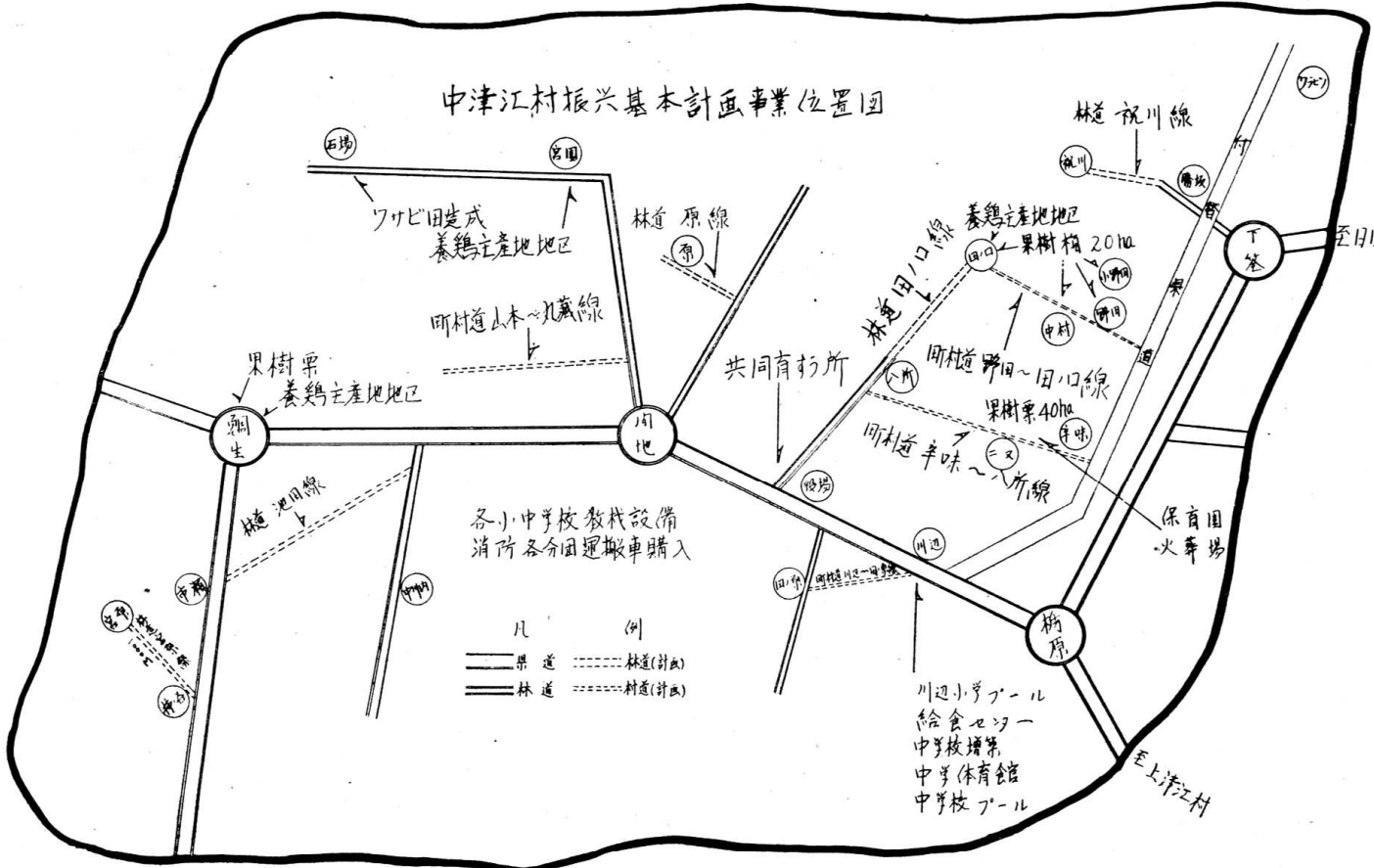
△ この計画が村の計画である以上、あくまでも併進して、本村の特性を充分生かされねばならない。また本村のように限られた財政で、事業を行うこと

村政の指針

△ このような計画は、単年度で成果が得られるというものではない。長期間連続して始めて、その成果が得られる。

そのためには、こんごの行政の目標として、全ての政策にこの計画の真意を求めなければならない。

予算を作る場合も、この計画の事業に



目 標

△ 昭和四十五年を目標にして、種々の事業を行うのであるが、特に（下記）農業、道路、公共補償に主力を注いでいる。

この計画が全て実施された後は、村民一人当りの所得平均一八万九千円で、この額は全村民の平均所得であるから、就業者のみの平均所得はもとより上回る。

教育も中学校山食を始めとして教材設備の充実。道路も車道のはいりぬ部落はほとんどなく、電話、火葬場、保育園など、都市とほとんど大差ない文化生活を営まれるようになる。

・ 農業と他産業の格差で自然の制約が非常にきつは、年々開らく一途にあぶしく零細農家がほとんど。この問題は今迄にもどである。このため農業機械あることに取り上げられ、経営を確立するため、果樹の対策として、農業の対策として、農業を選択的に拡大させる。この計画書では、それ等の難点には充分に注意を払い、いまままでの農業経営の中から、地域性と特色を出した計画である。次に上げるものが主なるのである。

果樹 面積80%が山林、養鶏の増殖をはかる。

畜産 畜産はすでに前進の途にある基礎を築き、自立する経営農家を育成するため、養鶏の増殖をはかる。

農 業 改良のようにより、前記の改良のようにより、貫した機械化は困難であるが、部分的には可能と考えられ、動力耕耘機40台を始め総額七千万円の農業近代資金を計上。

・ 道路はその地区民の生活さえも表す。と言えらるほど、現在の文化経済の発展下においては、密接な関係がある。この計画でも総事業の大半をこの計画に託している。

次に上げるのがその主なるものである。

県道 動脈ともいえる県道八女小国線を初め、鯛生一鹿本線、菊池一柿ノ谷線の改修が上げられている。

村道 線の外数ヶ所の事業がある。この事業実施後の期待は大きい。

林道 林道は池田橋梁の付替や、改修が編り込まれており、田ノ口線などはすでに工事が施行されており、八所部落までの完成は秒読みの段階になつており、地区民の期待も大きい。

山本一丸蔵 線の外数ヶ所の事業がある。この事業実施後の期待は大きい。

・ 公共補償の大きなものとしては、発電所の誘導などがある。また農林業の振興対策の改修や新設などがあ。その外官公庁の移転や、社会福祉施設の対策なども要求している。

またすでに実施されている部道もあ。公共補償を重ねる。

公共補償

・ 公共補償の大きなものとしては、発電所の誘導などがある。また農林業の振興対策の改修や新設などがあ。その外官公庁の移転や、社会福祉施設の対策なども要求している。

またすでに実施されている部道もあ。公共補償を重ねる。

